

<アイディアのねらい>

鑑賞に関する資質・能力を活用・発揮しながら、アートカードを使った鑑賞活動を行うことで、美術作品などの見方や感じ方を広げたり深めたりする。

<授業の展開例>

○3～4人のグループをつくり、アートカードセットを配付する。



○アートカードゲーム「○○美術館をつくろう」を行う。

- ・感情を表す言葉のカードから一枚引く。
- ・カードの言葉に合うと思うアートカードを、一人一枚とる。
- ・グループでカードを紹介し合い、そのカードにした理由も話す。



○活動を振り返る。



美術作品などの見方や感じ方が広がり深まる

〈講座の様子〉

例えば、感情を表す言葉が **楽しい** だった場合→「楽しい美術館」



いろいろな作品があるなあ。どれを選ぼうかなあ。

色数が多くて「鮮やか」な絵は楽しい感じがするなあ。

直感も大切にしながら選びます。

<講座の様子>

例えば、感情を表す言葉が **楽しい** だった場合→「楽しい美術館」

「動き」があるということかな。確かに「楽しい」感じがするね。

私がこの絵を選んだ理由は、描かれているものがあちこちにちらばって…。



選んだ絵を、造形に関する言葉を使いながら紹介し合います。

<留意点>

鑑賞活動で作品を深く味わうためには、言葉で語ったり記述したりすることがたいへん有効です。

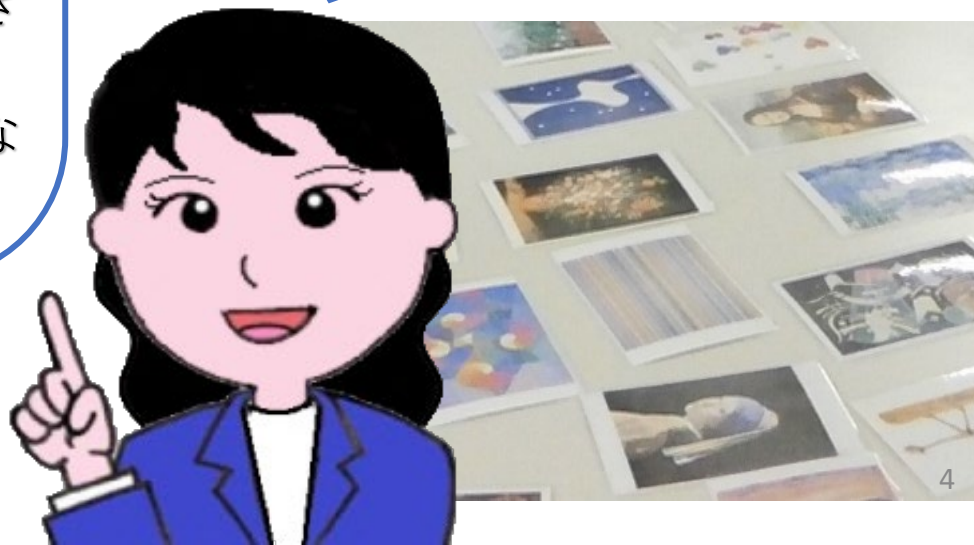
感じたことや思ったこと、考えたことなどを言葉にすることで漠然と見ていたことが整理され、更にグループで交流することにより自分一人では気付かなかった価値に気付くことができます。

言語活動が活発になるようなゲームを工夫しましょう。

他のゲームやクイズの例

- 三つのヒント
- 家に飾ろう！お気に入りの絵
- カレンダーをつくろう
- ストーリーをつくろう
- 神経衰弱
- 似たところみつけゲーム など

アートカードが手に入らなくても写真、ポストカード、雑誌の切り抜きなどが使えます。



<留意点>

図画工作・美術科の鑑賞では、「形や色彩などの造形の要素の特徴など」に意識を向けて考えることが重要です。そのために、言葉で表す際に〔共通事項〕に示された造形に関する言葉を視点とすることがポイントです。

児童生徒が話し合いで使えるよう、言葉を黒板に提示してもよいでしょう。教師が児童生徒の発言やつぶやきを取り上げ、広げる際も造形に関する言葉を活用しましょう。



この絵は色がぱっと明るくて楽しい感じがします。



どんな色を使っていますか。



赤やオレンジ，黄色が多いかな。



色彩に着目しましたね。塗り方はどうですか。



図画工作，美術科の学習指導要領では，「知識」について「対象や事象を捉える造形的な視点について理解するもの」として整理し，〔共通事項〕に位置付けています。話合いの視点となる造形に関する言葉の例として紹介します。



小学校図画工作科〔共通事項〕

ア 形や色などに関する理解について

- ・ 1， 2年
形や色，触った感じ
- ・ 3， 4年
形の感じ，色の感じ
色や形の組合せ，色の明るさ
- ・ 5， 6年
動き，奥行き，バランス
色の鮮やかさ

中学校・高等学校 美術科〔共通事項〕

ア 造形要素の働きに関する理解について

色彩（色味，明るさ，鮮やかさ）

材料（性質，質感）

光，構成，余白，空間，立体感，遠近感
量感，動勢

イ 全体のイメージや作風などで捉えることに関する理解について

- ・ 見立て…○○みたい
- ・ 心情など…かわいい，寂しい など
- ・ 作風…和風，現代的 など
- ・ 様式…バロック，印象派 など

<受講者の感想>

- ・鑑賞の方法について、何かよい手立てがないかと悩んでいたところだったので、アートカードを使って鑑賞をしてみたい。
- ・これまでは手立てを見いだせないまま鑑賞活動を進めていた。表現に比べれば鑑賞はあまり大切にされなかったのではと思った。アートカードは鑑賞の楽しさを教えるためにも使ってみたい。
- ・アートカードの演習では、自然に色、形、イメージに目を向けさせる多様な仕掛けがあった。自然に鑑賞の目が養われると思う。
- ・どの作品にも目が向き、細かい所まで見られるのが面白かった。見てほしい作品を選んで自作するのもよいなと思った。
- ・研修会議で、これからの図画工作科の授業づくりのポイントについて伝達していくとともに、実際にアートカードを活用した演習を行う（多分誰もやったことがないので）。

教科書に「アートカード」が付属しているものもあります。使い方もついているので実践してみましよう。

